

(4)

参

考

資

料

1

RA'-0671

0162

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

アジア局長

密 議 官

総務参事官

A. 12. 12-1 南西アジア課長

第 683 号

昭和36年10月25日

外務大臣 殿

在パキスタン

古 内 大 使

池田総理訪パの件

貴電合第1846号をもって登報方御
依頼のあった パキスタン側要人の 略、趣
味等に関し、下記のとおり報告する。

記

1. アユブ大統領 (Field Marshal Mohammed
Ayub Khan)

1. 略歴

1907 Hazara に生る

アリガールの Muslim University に学ぶ

1926 Sandhurst Military Academy

記帳了

在 外 公 館

亜 西 1914

に 留 学

1928 Indian Army 少尉 任官

第二次大戦中 ビルマ戦線にて大隊を指揮

1950 パキスタン軍の初代 総司令官となる

在任中 パキスタンにおける 最高の

"Hilal-e-Jur'at" 及び

"Hilal-e-Pakistan" 勲章を受ける

1958 大統領 就任

2. 趣味

狩猟、殊に鳥撃

テニス

ゴルフ

乗馬

園芸

ラワルペンティより 23哩ほどのところの

郷里 Hazara District に自分の

小農場、果樹園を持ち、時々訪ねる。

読書

ハ その他家庭を非常に大切にし、また一般
に子供好きである。

ニ 昨年12月に日本を訪問、また7月には

在 外 公 館

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0671

0163

英国及び米国を訪問した。

2. Mangur Qadir 外相

1. 略歴

1913 ラホールに生る。家は名門で
岳父は裁判官。パンジャブ州
議会議長などを丁任した。

ラホールの Government College
及びケンブリッジの Clare College
に学ぶ。

1936 ラホール高等裁判所に弁護
士 (Advocate) として開業後
に最高裁判所の首席弁護士
(Senior Advocate) となる。

現在パキスタンにおけるもっとも
すぐれた法律家の一である。

ロ. 家族関係

英国に留学中の Shireen 嬢をはじめ
3人の子供がある。

ハ. 外国旅行

国際法学協会 (International Law

在外公館

Association) パキスタン代表として ユーゴス
ラヴィア (1956) 及び米国における会議
(1958) に出席したほか、最近英国と
の他ヨーロッパ諸国を二回にわたり
訪問した。

3. Hafizur Rahman 商業相

1. 略歴

1902 マイサイン (Mymensingh) 地
方のカオラット (Kowrat) に
生る。

1924 ダッカ大学卒業 (経済学)

1925 修士号をとる。

1926 インド・ベンガル州官吏となる。

1947 ベンガル州政府公衆衛生及び
地方自治省次官補となる。

独立後 東パキスタン政府の繊維局長などを
丁任。

1951 パキスタン高等文官 (Civil Service
of Pakistan) となる。

1958 大統領より Sitara-e-Quaid-

在外公館

RA'-0671

0164

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

2. Azam 勲章を授けらる。

1958 食糧及び農業大臣となる。

1959 商業大臣に任ぜられる。

ロ. 趣味

園芸

ハ. 外国旅行

1954年 ECOSOC会議 パキスタン代表

団の一員として ジェネーブを訪ねた。

4. Abul Kasim Khan 工業相

イ. 略歴

1907 クワタゾンに生る。

クワタゾン Government College
及び カルカッタ Presidency
College に学ぶ。

1934 カルカッタ高等裁判所弁護士
となる。

1935 地方司政官に任命される。

1939 公務を退き クワタゾンにて
事業をはじめる。後 マッタ
工場、合板工場、綿糸布

在外公館

工場及び海運事業を設立

1946 インド憲法議会議員に選
出される。

1958 工業大臣となる。

ロ. 趣味

園芸及び水泳

ハ. 外国旅行

国際会議におけるパキスタン代表として
デリー、ハバナ、ジュネーブ、ジェネ
ーヴ、ロンドンなどを訪ねたほか、広くヨー
ロッパ、アメリカ及び中近東を旅行
している。

5. Malik Amir Mohammad Khan

西パキスタン知事

イ. 略歴

1910 Kalabaghに生る。

ラホールにて学び オクスフォード
大学に留学する。

国会議員、パキスタン工業
振興公社 (Pakistan

在外公館

RA'-0671

0165

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

	Industrial Development Corporation) 総裁及び食糧農業委員会議長を丁任
1960	西パキスタン知事となる。
ロ. 趣味	
園芸	
ハ. 家族	
	子供6人。うち2人は英國留学中
ニ. 外国旅行	
	日本もよく、広く外国を旅行した。
6. S. M. Yusuf 工業次官	
イ. 略丁	
1913	ラホールに生る。
	Government College に学ぶ。
1938	ICS (Indian Civil Service) 試験に合格
1943	インド政府次官補となる。
	パキスタンにおいては ジンナーの秘書をつとめ
1951	商業省に入る。

在外公館

1952	ジュート庁の長官 (Chairman of the Jute Board)
1953	商業省次官補 (Joint Secretary)
1960	パキスタン工業振興公社理事に就任。
1960	工業省次官に就任。
ロ. 外国旅行	
	1961年10月 借款交渉のため訪日。
7. S. K. Dehlawi. 外務次官	
イ. 略丁	
1913	生れ。
	ボンベイ大学及びオクスフォード大学にて学ぶ。
1938	インド高等文官試験に合格。
1950	パリに パキスタン大使館開設のため赴き、代理大使として3年間在勤。
1953	本国に帰り 外務次官補 (Joint Secretary) となる。
1961	外務次官に任ぜられる。

在外公館

RA'-0671

0166

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ロ. 趣味
スポーツ
ボクシング、乗馬、テニス、狩猟
ハ. 家族
子供 2人
ニ. 外国旅行
上記パリのほか、前首相のワシントン訪問に随伴し、ロンドンにおける会議にも出席している。
87. Mirza Osman Ali Baig. 商業次官
1. 略歴
1904 生れ
1917~1921 グリストン Clifton College に学ぶ。
1922 サンドースト英王立士官学校に入学
1924~1930 インド軍に勤務
1928 同時にインド外務政務公務員となり、国内の外ポルトガル、カナダ、米国等に在勤。

在外公館

独立後 在ワシントン・パキスタン大使館の参事官 後に公使を勤めた。
1951. 外務次官に任命さる。
1953. 駐カナダ・パキスタン高等弁務官
1959. 商業次官
ロ. 家族
2人の令息あり
9.8. 政府企画委員会 (Planning Commission) 副議長 Said Hasan
1. 略歴
1927. インド政府財務部
1950~56. パキスタン政府 経済省次官補、後に次官として勤めた。
この間 1952. コロンボ・プラン official Committee 議長。
1953. 日本との通商条約交渉
1954. 対ソ経済使節団団長
1955. SEATO 経済委員会議長
1957. 対中央経済使節団団長

在外公館

RA'-0671

0167

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

1953~1956 国家計画委員会 (National Planning Board) 委員
1957 同委員長
ロ、外国旅行
上記 ソ連及び中共
10. カラチ市議会議長 Mirza Hamid Husain 准将
イ、略歴
1934 インド軍少将 ^尉 任官
1951 パキスタン外務省に入る。
中近担当
儀典長
英国、イラク、イラン及びトルコ領
軍、サウジアラビア代理大使
駐セイロン高等弁務官を任
1960~61. コロムビア計画評議会議長
1961. カラチ市議会議長
ロ、趣味
スポーツ
スクワッシュ、テニス

在外公館

ハ、家族関係
インド(パキスタン)の名家たる Nawab
Qasim Khan の直系で Lohani
の支配的な家に属し、母方によつて
Sir Syed Ahmed Khan (インド
U.P. 州アリガ大学(創立者)の血
縁である。
11. K.B.H. H.M. Habibullah カラチ市会
副議長
イ、略歴
1901 西パキスタン、アトッフ地方に生れ
ケンブリッジに学ぶ。
1931~32. 英領インド通商使節団に
加わり日本に滞在。
1939. 衣料 支給 配給制及び食糧
計画の面で功き、その功に
よりインド政府より「Khan
Bahadur」なる称号を授
けられる。
1950 国連の会の副会長となる。

在外公館

RA'-0671

0168

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

パキスタン国立銀行のカラチ支部長
を3年にわたって勤め、カラチ市助
役として同地に選出された。

ロ. 外国旅行

日本は数回訪れ、ロシアに8年
中国、日本、香港に11年、アフガニ
スタンに2年、イランに3年を過し
更に6ヶ月にわたって米國、英國、
カナダその他欧州、中東の諸國を
旅行した。

12. カラチ発展公団 (Karachi Development
Authority) 総裁 N. Humayune 文佐

1923 生れ。

士官学校卒業後米國
及び英國の軍工科大学
に学ぶ

軍司令部土木主任、リサルプル (Risalpur) 軍工科大学学長などを
丁任、現在 KDA のほか住宅庁
(National Housing & Settlements Agency)

在外公館

総裁である。

13. ~~氏~~ Ahmed Dawood.

イ. 略歴

戦前 インドにおいて手広く棉花
人絹、皮物などの貿易に従
事、植物油工場、圧搾工場
などを経営。

戦後 パキスタンに移り ダウード会
社を1948年、つづいて ダウード
工業会社 (Dawood Industries
Ltd.) を1949年に創設。
カラチ郊外ランディの近代製
綿織物工場は1951年に
設立した。その後いくつかの
他会社を併合した。現在
多数の会社の社長、重役を
兼任している。

ロ. 外国旅行

1956年 パキスタン通商代表団に加
わって英領東アフリカを訪れたほか

在外公館

Pak. Chemical Ltd., United Bank Ltd., Bandenamag Ltd. など
数多くの会社の社長重役を兼任。

ロ、趣味

写真、競馬、ゴルフ、テニス

Royal Photographic Society,
Royal Society of Arts などの
メンバーであり、Photographic
Society of Pakistan, Karachi,
Automobile Association, Karachi
Race Club などの会長であり、
パキスタン Royal Commonwealth
Society の会長でもある。

ハ、家族関係

Sir Ibrahim Rahimtoola を父とし、
Lady Kulsum Rahimtoola を母と
する。二男一女の父
夫人は Sir Sultan Chinoy の親女
で、ボンベイ社交界の花形であり、
現在は社会事業に熱心である。

在外公館

非常に多くの国々を旅行し、日本
も数回訪れて、片言程度の日本
語を話す。

ハ、慈善事業及び教育のために多額の
寄付をしている。1961年 Dawood
Foundation を創立した。

14. 格. Habib Ibrahim Rahimtoola 日パ
文化協会会長。

イ、略歴

1912 年生。ボンベイの Government
Law College に学ぶ。

1947~52. 駐英 パキスタン 高等弁務官

1952~53. 駐仏 パキスタン 大使

1953~54. シンド州知事

1954. パンジャブ州知事

1954~55. 商業大臣

1955~56. 商工業大臣

1958~60. カラチ発展公園 総裁

等々を了任。

現在 Pakistan Oxygen Ltd.,

在外公館

RA'-0671

0170

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

二. 外国旅行

幾多の پاکستان代表団に加わつて
ロンドン、パリ、ジュネーヴ、ブラスセル、
米國、フロンボ、バンドン、デリー など
を訪れている。 1961年日本訪問、
アメリカ、ヨーロッパ諸國を丁訪に
いる。

15
Mir Mohammed Shah Mohammed Shaikh
(近く儀典長就任の予定)

1913 生れ

1932 Sind College 卒業、
のち ボンベイ Government
Law College にて法律を学
ぶ、更に Indian Historical
Research Institute にて
Moghal 王朝の丁史を研
究。

1939 シンド州司法部に入る。

1950 パキスタン外務省に入る。

1951~53 在トルコ大使館勤務

在外公館

1953~56 外務次官補

1957~60 在米大使館参事官

1960~61 ニューヨーク総領事

ロ. 趣味

寫眞、音楽、テニス

ハ. 家族

令息 2 (15才及び11才)

令嬢 1 (13才)

在外公館

RA'-0671

0171

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

17
パキスタンにおいて宗教上、慣習上留意すべき事項

21
1. 回教の戒律上、豚肉を食することは

禁忌とされており、一般に「豚」という

言葉事体忌み嫌われる程であるから、

ホテル等で豚肉の提供を求めないこと。

2. 回教寺院の境内及び墓所の廟内に

入る際は靴を脱ぐこと。但し靴

下は脱がなくてよい。又布のカバーが

備えてある場所ではそれをつければ

靴を脱ぐ必要はない。

GA-6

外務省

3. レセプション等において先方からの供

応なき限りアルコール飲料の提供を求

めないこと。

4. 荷物の持ち運び、洗濯等は身分

制度でそれぞれ受持ちがきまっているの

で自ら行わないこと。

5. 左手は一般に不浄とされている。

6. 路上において婦女子の字臭を揚る

ぬこと。

7. 特別の許可なくして軍事施設、

空港及び橋梁の字臭を揚るぬこと。

GA-6

外務省

RA'-0671

0172

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

パキスタンにおいて宗教上、
慣習上留意すべき事項

1. 回教の戒律上、豚肉を食することは禁忌とされており、一般に「豚」という言葉事体忌み嫌われる程であるから、ホテル等で豚肉の提供を求めないこと。
2. 回教寺院の境内及び墓所の廟内に入る際には靴を脱ぐこと。但し靴下は脱がなくてよい。又布のカバーが備えてある場所ではそれをつければ靴を脱ぐ必要はない。
3. レセプション等において先方からの供应なき限りアルコール飲料の提供を求めないこと。
4. 荷物の持ち運び、洗濯等は身分制度でそれぞれ受持ちがきまつているので自ら行わないこと。
5. 左手は一般に不浄とされている。
6. 路上において婦女子の写真を撮らぬこと。
7. 特別の許可なくして軍事施設、空港及び橋梁の写真を撮らぬこと。

(総理アジア諸国訪問資料第4)

1. パキスタン

昭和36.10.23

A カラチ及びその周辺

(1) フレア・ホール (Frere Hall)

英国がインド統治時代に建造した建物であるが、現在は国立カラチ博物館となっている。この博物館の前にカラチで最も立派な公園があり、普通ここで国賓のための市民歓迎会が行われる。

(2) ジンナー霊廟 (Mazar of Qaid-e-Azam,

Jinnah) ジンナーはインド回教徒連盟の党首としてパキスタン独立運動推進の立役者となつた人で、「パキスタン建国の父」と称されている。建国後間もない1948年9月病没した。なお、ジンナー霊廟の境内にはパキスタンの初代首相リアカット・アリ・カーン(1951年10月ラワルビンディにて暗殺された)の墓もある。

RA'-0671

0173

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

(3) コーランギ住宅地 (Korangi Colony)

1947年バキスタンが宗教上の理由によりインドから分離独立した後インドより約800万の回教徒がバキスタンに難民として流入した。このうちの約100万人はカラチに定着したが、その大部分の者はバキスタン建国後10年を経てもなお家らしい家を持たなかつた。現アユープ政府は1958年10月の政変により政權掌握後これら難民の救済を重要政策の一つとして取り上げ、その一環としてカラチの北東約10キロのコーランギ地区にICA及びフォード財団の援助を得て難民のための住宅地を建設した。現在約3万世帯約15万人の住むこの住宅地は将来には500万人を擁する新都市にまで拡張されることとなっている。

(4) ダーウッド紡績工場 (Dawood Textile Mills)

前述のコーランギ住宅地より更に数キロ、

カラチより奥まつたランデイ工場地帯にある代表的な綿紡工場(バキスタン第一流のダーウッド財閥に属する)である。同工場は日本人の手により設計されたものであり、設備機械も大部分日本製である。現在に至るも日本人主任技師の指導の下に運営されている。

B ラホール

(1) シヤラマル・ガーデン (Shalamar Garden)

ムガル王朝(1526年-1761年)
第5代のシャージャハーン(1666年没)
が作った離宮で、三段階の庭園及び付属建
造物(浴室を含む)よりなる。ラホールに
おける国賓の市民歓迎会は通常このシヤラ
マル・ガーデンにて行なわれる。

(2) ジャハングールの墓 (Jahangir's Tomb)

上記シャージャハーンが自分の父のジャ
ハングール(ムガル朝第4代の王。16
27年没)のために作った墓である。墓所
自体も立派であるが(但し19世紀にラホ
ール近辺を配下に収めたシク教徒——1
5世紀グルナナクによつて興された一宗教
を奉ずる者で、現在アムリツアを中心と
してインド西北地方に強大な勢力を有して
いる。——により墓所はかなり破損された)
その周辺の宏大な庭園も非常に優れている。

(3) ラホール・フォート (Lahore Fort)

ジャハングールの父、アクバル(ムガ
ール朝第3代の王、1605年没)によ
り建てられた大規模な城塞である。

(4) バードシャヒ・モスク (Badshahi Mosque)

シャージャハーンの子オーラングゼー
ブ(ムガル朝第6代の王。1707年
没)が1674年に完成した回教寺院で
ある。4本の柱で囲まれた境内の面積か
らすれば世界最大の回教寺院であるとい
われるが、建造物自体はそれ以前の回教
寺院の単なる模倣の域を出ず、建築史上
優れたものであるとはいえない。